

## Google検索エンジニアが重複処理を語る——正規化とクラスタリングは違う、正規化には40個のシグナルを使う

Google 検索のソフトウェアエンジニアで Dups チームに所属しているアラン・スコット氏が、重複処理について Search Off the Record ポッドキャストで語った。

Search Off the Record ポッドキャストの[エピソード 87](#)では、Google 検索のソフトウェアエンジニアで Dups チームに所属している Allan Scott(アラン・スコット)氏がゲスト出演しました。

スコット氏は、重複関連の仕組みの開発を専門にしています(Dups は Duplicate の略で重複のこと)。

検索リレーションズチームの Martin Splitt(マーティン・スプリット)氏と John Mueller(ジョン・ミュラー)氏がホストしたこのポッドキャストで、スコット氏は、正規化やクラスタリング、ローカライズなどのトピックを掘り下げました。

### 正規化とクラスタリング

クラスタリングと正規化の微妙な違いについてスコット氏はまず説明します。

- **Clustering(クラスタリング)**: 類似したコンテンツを持つURLをクラスタにグループ化し、重複ページとして対処する
  - **Canonicalization(正規化)**: 検索結果に表示する、クラスタ内で最も代表的なURLを選択する
- 次のようなシグナルがこれらのプロセスに影響を与えます。

- rel="canonical"
- 301 リダイレクト
- HTTP と HTTPS の優先順位

こうしたシグナルは一例であり、約 40 のシグナルが正規化の選択に実際には関わっていることをスコット氏は強調します。

そして、サイト管理者は矛盾するシグナル——たとえば rel="canonical"と 301 リダイレクトが異なる正規 URLを示している——を避けることが重要だと述べています。

### ローカライズの課題

ローカライズは、地域特有の類似したコンテンツ(例:通貨など、わずかな違いがあるドイツとスイスのページ)をグループ化する場合に、クラスタリングを複雑にします。

スコット氏は、ローカライズに対する2つのアプローチについて詳しく説明しています。

- **ボイラープレートの翻訳**: リソースを節約するためにクラスタに統合される
  - 🔗 **すずき補足**: Boilerplate(ボイラープレート)はメニューなどサイト内で共通する部分。メニューだけを各言語に翻訳しメインコンテンツは翻訳せずに同じ言語が使われている場合は、クラスタリングされる
- **完全な翻訳**: 異なるユーザーのクエリに対応するために個別に保持される

## Google検索エンジニアが重複処理を語る——正規化とクラスタリングは違う、正規化には40個のシグナルを使う

Google 検索のソフトウェアエンジニアで Dups チームに所属しているアラン・スコット氏が、重複処理について Search Off the Record ポッドキャストで語った。

hreflang アノテーションは、検索結果でローカライズされたページを優先するのに役立ちます。  
hreflang の使用と検証を改善するための継続的な取り組みについてもスコット氏は触れました。

### エラーページとブラックホール

エラーページ、特にソフト 404(誤ってHTTP 200 ステータスコードを返すエラーページ)がクラスタリングされている場合、重大な問題が発生します。  
これは、「ブラックホール」クラスタと呼ばれます  
一時的なエラーや誤ったエラーに他の正常なページも巻き込まれ、再クロールや適切なインデックス作成が妨げられるクラスタです。

ブラックホールクラスタをスコット氏は警告し、次のような回避策を挙げました。

- HTTP ステータスコード(例:404、503)を正しく使用する
- JavaScript でレンダリングされたページでも、明確なエラーメッセージを提供する
- ユニークで正確なコンテンツを確保することにより、不適切なクラスタリングを回避する

### 実践的な推奨事項

スコット氏は最後に、次のようなことにサイト管理者は注意するように推奨しました。

- 正規化シグナルが一貫しており、目的の URL を指していることを確認する
- ローカライズに hreflang アノテーションを正確に使用する
- クラスタリングの問題を回避するために、適切な HTTP ステータスコードを提供する
- エラーを防ぐために、rel="canonical" の実装を定期的に監査する

クロール、インデックス関連のトピックは、特に大規模サイトの管理者にとって興味深いのではないのでしょうか。

この記事は要約なので、あなたにとって興味がある部分を省いているかもしれません。  
YouTube 動画だと自動翻訳を利用できます。



[文字起こしたトランスクリプト](#)もあるので、生成 AI に翻訳させてもいいでしょう。

## キャッシュについてGoogleが解説

Googleは、米国現地時間12月9日、[Search Central Blogを更新](#)し、Webサイトページのキャッシュ有効化について説明・推奨していましたのでご紹介します。先日の[クロールの解説](#)に続くTipsとして記載されている原文を和訳します。

### キャッシュの有効化を推奨

Googleとしては、表示速度の速さからキャッシュを取るようなサイト設定を推奨しています。キャッシュできるように設定すると、ユーザー目線でページ更新した時にキャッシュが残ってしまい、更新後のコンテンツを(ちゃんと設定していないと)すぐに閲覧しづらくなってしまいますので個人的には面倒くさくてあまり好きではないのですが…。まずはSearch Central Blogの内容を和訳します(一部、[\[Examples\]](#)以下のセクションは割愛しています)。

### クロールの12月:HTTPキャッシュについて

キャッシュを有効化しましょう。

インターネットが長年に渡って成長するにつれ、Googleのクロール量も増加しました。Googleのクロールに関するインフラはヒューリスティックキャッシュ機能を採用しており、実際に常時サポートしてきましたが、ローカルキャッシュから返されるリクエストの数は減少しています。10年前は読込数全体の約0.026%がキャッシュ可能でしたが、現在はそこまでではありません。現在、その数は0.017%まで下がっています。

### なぜキャッシュが重要か？

キャッシュは、インターネットという大きなパズルを形成する上で重要なピースとなっています。キャッシュにより、ページを再訪問した時、超高速で読み込むことができ、コンピューティングリソースと自然資源を節約し、クライアントとサーバーの両方で膨大な量の高価な帯域幅を節約できます。

特に、個々のURLで滅多に変更されないコンテンツを含む大規模なサイトの場合、ローカルでのキャッシュを許可すると、サイトのクロール効率が向上する可能性があります。Googleのクロールインフラストラクチャは、[HTTPキャッシュ基準](#)で定義されているヒューリスティックHTTPキャッシュをサポートしています(具体的には、ETagレスポンスとIf-None-Matchリクエストヘッダー、そしてLast-ModifiedレスポンスとIf-Modified-Sinceリクエストヘッダー経由)。

エラーや間違いが起きにくいと、ETagを使用することを強くお勧めします(Last-Modified値とは異なり構造化されていません)。応用した方法がある場合は、両方を設定してください。これはインターネットに優しい設定です。

クライアントのキャッシュの更新を必要とする変更と見なすかどうかは、自分次第です。コンテンツに重大な変更があった場合はキャッシュの更新を要求することをお勧めします。ページの下部にある著作権表示の日付のみを更新した場合程度では、重大な変更とは言いません。

## キャッシュについてGoogleが解説

Googleは、米国現地時間12月9日、[Search Central Blogを更新](#)し、Webサイトページのキャッシュ有効化について説明・推奨していましたのでご紹介します。先日の[クロールの解説](#)に続くTipsとして記載されている原文を和訳します。

### ETagとIf-None-Match

Googleのクローラーは、[HTTPキャッシュ基準](#)で定義されている通りに条件付きリクエストに基づいたETagをサポートしています。つまり、Googleのクローラーにキャッシュ設定を通知するには、アクセスしたURLでホストされているコンテンツの表現に固有の任意のASCII文字列(通常はコンテンツのハッシュまたはバージョン番号ですが、 $\pi$ の一部でも結構です)にETag値を設定します。例えば、同じURLで同じコンテンツの異なるバージョン(モバイル版とデスクトップ版等)をホストする場合、各バージョンに独自の個別ETag値を設定できます。キャッシュをサポートするGoogleのクローラーは、そのURLの以前のクロールに対して返されたETag値をIf-None-Matchヘッダーで送信します。クローラーによって送信されたETag値がサーバーが生成した現在の値と一致するIf-None-Matchヘッダーの場合、サーバーはHTTP本文のないHTTP 304(未変更)ステータスコードを返すはずですが、この最後の部分(HTTP本文のない話)は、下記の理由等から重要な部分と言えます：

- サーバーは実際にコンテンツを生成するためにコンピューティングリソースを費やす必要がないため、コスト節約に繋がります。
- サーバーはHTTP本体を転送する必要がないので、コスト節約に繋がります。

ユーザーのブラウザやGooglebotなどのクライアント側では、そのURLのコンテンツがクライアントの内部キャッシュから取得されます。データ転送が伴わないため、この処理は超高速で行われ、ユーザー満足だけでなくリソースの節約にもつながるわけです。

### Last-ModifiedとIf-Modified-Since

ETagと同様に、GoogleのクローラーはLast-Modified basedも、HTTPキャッシュ基準で定義されている通りに条件付きリクエストをサポートしています。これは、セマンティックな観点からはETagと同じように機能し(識別子を使用してリソースがキャッシュ可能かどうかを判断します)、ETagクライアント側と同じ利点があります。

但し、Last-Modifiedキャッシュディレクティブとして使用する場合、いくつかの推奨事項があります。

1. Last-Modifiedヘッダー内の日付は、[HTTP基準](#)に従ってフォーマット化する必要があります。解析の問題を回避するために、次の日付形式を使用することをお勧めします：“Weekday, DD Mon YYYY HH:MM:SS Timezone”。例：“Fri, 4 Sep 1998 19:15:56 GMT”。
2. 必須ではありませんが、クローラーが特定のURLをいつ再クロールすべきか判断できるよう、Cache-Controlヘッダーにmax-agefieldを設定することもご検討ください。max-agefieldの値をコンテンツが変更されないと予想される秒数に設定します。例：“Cache-Control: max-age=94043”。

引用)[Search Central Blog](#)より一部和訳

## キャッシュについてGoogleが解説

Googleは、米国現地時間12月9日、[Search Central Blogを更新](#)し、Webサイトページのキャッシュ有効化について説明・推奨していましたのでご紹介します。先日の[クロールの解説](#)に続くTipsとして記載されている原文を和訳します。

今回のブログの主な内容としては、“Webサイトのキャッシュを有効化してください”というような趣旨です。Googleのクローラーはブラウザと同じようにキャッシュの取り扱いができるため、キャッシュが有効化されているサイトは再訪問したときにスピーディーにクローリングでき、特に、大規模サイトで、殆ど変更されないコンテンツを含む場合、キャッシュを有効化することでサイト全体のクローリング効率も向上することがあるとのことでした。

また、キャッシュを有効化するための仕組みとして2種類の方法があり、“ETagとIf-None-Matchを利用する方法”、そして“Last-ModifiedとIf-Modified-Sinceを利用する方法”です。

ETagを利用する方法については、Webサイトの更新に合わせて、キャッシュ情報と合わせてETag情報も更新します。初回アクセス時に、キャッシュとETagの情報をブラウザは保存しますので、2回目以降アクセスする際に、If-None-Matchリクエストをすると、ETagが更新されていない場合はキャッシュを読み込み、ETagが更新されている場合はページも更新しているので最新のコンテンツの読み込むようになる、というキャッシュ有効化の仕組みになっています（基本的にブラウザはIf-None-Matchをリクエストするようになっています）。ETagの情報自体はバージョン管理識別子のようなもので、任意の文字列の組み合わせで出来ているため、情報のやり取りもスムーズかつ高速に出来るとのことでした。

Last-Modifiedについても、ETagとほぼ同じような仕組みで、ETagの値がLast-Modifiedという日付情報の値になっているイメージですね。但し、Last-Modifiedを設定する際の推奨設定項目として、日付のフォーマットと再クローリングのタイミング目安の設定をするように説明してくれております。

ETagとLast-Modifiedでは、基本的にETagの情報が優先されるようですが、Googleはどちらも設定することを推奨しています。

また、今回のブログ公表のタイミングで、Googleの公式ドキュメント「[Overview of Google crawlers and fetchers\(user agents\)](#)」も更新されており、ここでの追加項目に関しては、ブログの内容を要約して掲載しているので、記載内容は同じです。

## キャッシュについてGoogleが解説

Googleは、米国現地時間12月9日、[Search Central Blogを更新](#)し、Webサイトページのキャッシュ有効化について説明・推奨していましたのでご紹介します。先日の[クロールの解説](#)に続くTipsとして記載されている原文を和訳します。

December 9

Documentation for cache control support of Google's crawlers

What: Added a section about how Google's crawlers handle cache control headers in the overview of Google's crawlers.

Why: While the information was already public in form of a blog post, it was never officially made into documentation.

12月9日

Googleクローラーのキャッシュ制御サポートに関するドキュメント

内容: overview of Google's crawlersにGoogleクローラーがキャッシュ制御ヘッダーを処理する方法に関するセクションを追加しました。

理由: 情報は既にブログ投稿で公開していたものの、公式ドキュメント化はしていなかったため。

引用)Latest documentation updates

### コーダーは必見

キャッシュの有効化問題については色々な意見がありますが、Googleは推奨していますし、次回の更新のタイミングも把握していれば問題ないという解釈ですね。基本的にはキャッシュを有効化しておいて、更新のタイミングでキャッシュを外して…みたいな感じでも良いかと思いますが、クローラーと呼吸を合わせたいのであれば今回のGoogleの推奨事項を遵守したほうが良さそうです。

いずれにしてもキャッシュのテクニックとしてコーダーは理解しておいた方が良いでしょう。こういった設定は地味ですし、誰も気づいてくれないような設定ですが、プロであれば(承認欲求無しの)プライド一本で実装しましょう(笑)。

## 2024年のGoogle検索トレンド

毎年恒例のGoogleによる[年間の検索トレンド](#)が発表されましたのでご紹介しておきます。世界的な見地では、[The Keyword](#)で発表されている通り、大統領候補のトランプ氏とハリス氏についてが注目のニュースでしたが、日本ではどうだったでしょう。ちょっとした箸休めとしてご紹介しておきたいと思います。ちなみに、当ブログでも[2018年](#)、[2020年](#)、[2021年](#)、[2022年](#)、[2023年](#)とご紹介してきていますので、過去も気になる方は是非ご覧ください。

### 日本では大谷選手関連が上位

[2024年の日本の検索トレンド](#)を見ると、急上昇ランキングとなる検索クエリの1位は「ドジャース」、3位には「田中 真美子」(大谷選手の奥様)と、MLBの大谷翔平選手関連が多いようです。また今年に亡くなった方(鳥山明氏、西田敏行氏)の検索も多かったようです。

人物検索では政治的に目立った人や今年亡くなった有名人検索を超えて「田中 真美子」さんの検索が1位でした。「～とは」検索でも「亜脱臼 とは」が上位に入っており、こちらも大谷選手関連の検索クエリでした。



[Google Trends](#)より

### これら検索心理に答えていたのは…

今回のGoogle Trendsからの情報には他にもエンタメ系でのランキングもあり、また南海トラフ関連での検索が多かったこともあり、色々なことがあった1年だったなあ、と思い起こせます。是非ご覧ください。

ただ、今までと違って、今年いよいよ私が気になったのは「これらの検索に対して回答していたのはWebサイトなのか生成AIなのか」ということ。特に「～とは」検索に関しては生成AI(Gemini)による「AIによる概要」がどれくらい助けになっていたかということ。今年から活性化した生成AIはGoogle検索結果にもデフォルトで反映されるようになり、もはやWebサイトを見なくてもプラットフォーム内で情報を入手できるようになっています。

私たちのようなサイト運用者やサイトオーナー側は、今後AIとの情報勝負やアクセス情報になっており、また「AIによる概要」にもいかに採用されるかさえ考えています。来年はSEO(Search Engine Optimization)だけでなく、より一層のGAIO(Generative AI Optimization)も活性化しそうです。

そんな感じでSEOは常に戦々恐々としていますが、いずれにしてもやるべきことは“サイトを良くすること”であり、原理原則は変わらないかと思います。まさにこのシンギュラリティな時期を楽しんでいきたいと個人的に思う日々でございます。

## 202412コアアップデート

Googleは米国現地時間12月12日、コアアップデートを開始したと発表しました。2024年は3月と8月と、まさに直近の11月にコアアップデートを行ったばかりで、4回目になります。  
しかも11月のコアアップデートは現地時間12月5日に終わったばかりですので…1週間後すぐに今年4回目のコアアップデートに着手したことになります。

### Google Search Status Dashboard

This page provides status information on the services that are part of Google Search. Check back here to view the current status of the services listed below. If you are experiencing an issue not listed here, please [contact Support](#). Learn more about what's posted on the dashboard in [this FAQ](#). For additional information on these services, please visit <https://developers.google.com/search/help/status-dashboard>.

Available Service information Service disruption Service outage

### All incidents reported for Ranking

2024

SUMMARY	DATE	DURATION
<a href="#">December 2024 core update</a>	12 Dec 2024	<a href="#">Information</a>
<a href="#">November 2024 core update</a>	11 Nov 2024	23 days, 13 hours

### 通常運転？

去年のコアアップデートは3月、8月、10月、11月の4回ですので今年の3月、8月、11月、12月も通常運転だと思われます。ただし、コアアップデートが2週間程度続くことを考えますと…そして今年11月のコアアップデートが23日と11時間もかかったことを考えますと、今年4回目(12月)はこのタイミングで早く展開しないと完全にロールアウトするまで年を跨いでしまおうと考えたのではないのでしょうか？

その結果、3回目の1週間後にコアアップデートを導入したと考えるのも妥当な気がします。

## 202412コアアップデート

Googleは米国現地時間12月12日、コアアップデートを開始したと発表しました。2024年は3月と8月と、まさに直近の11月にコアアップデートを行ったばかりで、4回目になります。  
しかも11月のコアアップデートは現地時間12月5日に終わったばかりですので…1週間後すぐに今年4回目のコアアップデートに着手したことになります。



2024年12月のコアアップデートが展開されており、2週間以内に完了する予定です。

先月コアアップデートがあったのに、今月さらにコアアップデートがあるのはなぜかと疑問に思うかもしれませんが、私たちは常に改善している様々なコアシステムを持っています。過去のブログ投稿で詳しく説明しています。

引用)@googlesearchcより和訳

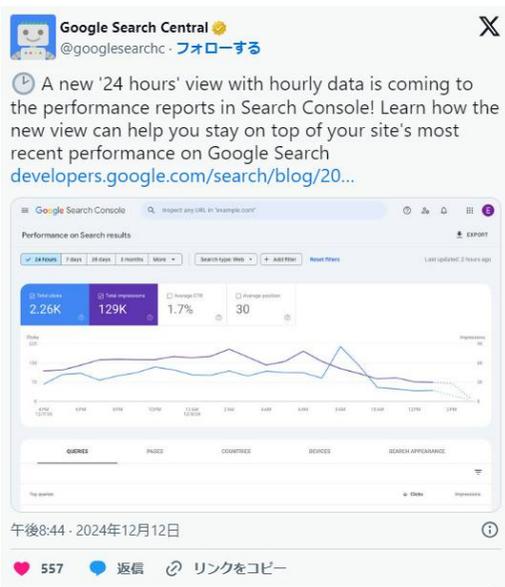
実際、2週間後は12月26日(日本時間12月27日頃)ですので、年内には完了させるということなのでしょう(日本ですと奇しくも年内業務最終日と重なってますねw)。GoogleのこのXでの説明ぶりから考えると、11月のコアアップデートとは違ったところでコアアップデートをするようなイメージですね。ですので、11月に変動したような要素とは別軸で動いているランキングシステムな気がします。

2023年、2024年と年初のコアアップデートは3月に来ていますので、2025年のコアアップデートも3月からになるかもしれませんね。つまり、大幅な変動は今回以降しばらくは起こらないかもしれません。

注意深く見守っていきましょう。

## GSCで過去24時間別データ閲覧

Googleは米国現地時間12月12日、Search Central BlogにてSearch Consoleにおける[検索パフォーマンス]項目において、直近のみ24時間単位での閲覧もできるようになったと発表しました。正直そこまで…なのですが、毎日確認して、自分でアーカイブ化するようにしていけば、時間単位でのクリックを統計で分析していくこともできるようになりますので、そういう意味では深掘りできるようになったと言えますね。



Search Consoleのパフォーマンスレポートに、時間ごとのデータを表示する新しい“24時間”ビューが追加されます。この新しいビューを使って、Google検索におけるサイトの最新パフォーマンスを把握するようにしてみましょう。  
<https://developers.google.com/search/blog/2024/12/recent-data-search-console>  
(引用)@googlesearchcより和訳

### Googleからの発表内容

まずは[Search Central Blogの内容](#)を和訳してご紹介します。

### Search Consoleで直近のパフォーマンスデータを表示する方法が改善

コンテンツの直近のパフォーマンスをより適切に確認できるように、Search Consoleの[パフォーマンスレポート]に[24時間]ビューを導入し、鮮度良くデータを閲覧できるようにしました。これらの変更は今後数ヶ月かけて徐々に全プロパティに展開されますので、すぐに変更が反映されない可能性もあります。

## GSCで過去24時間別データ閲覧

Googleは米国現地時間12月12日、Search Central BlogにてSearch Consoleにおける[検索パフォーマンス]項目において、直近のみ24時間単位での閲覧もできるようになったと発表しました。正直そこまで…なのですが、毎日確認して、自分でアーカイブ化するようにしていけば、時間単位でのクリックを統計で分析していくこともできるようになりますので、そういう意味では深掘りできるようになったと言えますね。

### [24時間]ビュー

新しいビューには過去24時間のデータが閲覧できるようになっており、直近数時間のタイムラグで表示されます。このビューを使用すると、例えば次のような情報をより簡単に確認することができます。

- 直近の期間におけるページとクエリのパフォーマンス
- 直近で公開したコンテンツのパフォーマンス
- 過去24時間以内にユーザーをコンテンツに誘導した検索クエリは何か

他のパフォーマンスレポートビューと同様に、新しいビューでは、クリック数、表示回数、平均 CTR、平均順位を確認し、様々な軸(クエリ、ページ、国等)ごとに分類することができます。

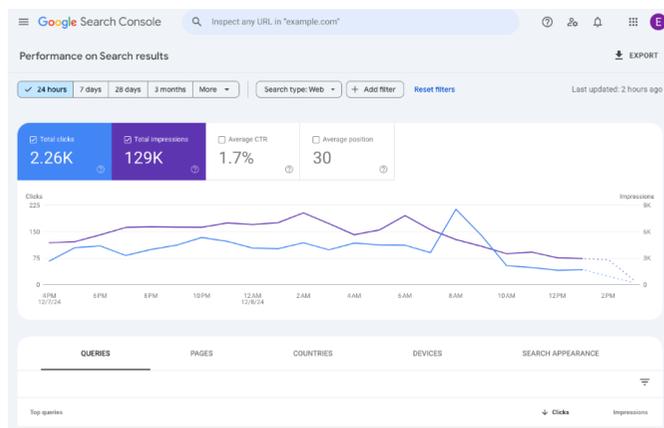
[24時間]ビューには、時間単位で推移グラフが表示されます。これは、検索結果、Discover、Googleニュースの3つのパフォーマンスレポート全てで利用可能です。極力早くデータを表示するために、Search Consoleでは、データ地点においてデータの収集が完了していなくても、データ地点に関する数値が取り急ぎ表示されます。UIでは、その部分が点線で示されます。

このビューのデータはローカルタイムゾーンで表示され、どこにいても過去24時間のデータが表示されます。Search Consoleはブラウザで設定された時間に合わせてタイムゾーンのデータを表示します。基となるデータは常に同じです。

試してみるには、[パフォーマンスレポートを開いて](#)[24時間]ビューをクリックしてください。

## GSCで過去24時間別データ閲覧

Googleは米国現地時間12月12日、Search Central BlogにてSearch Consoleにおける[検索パフォーマンス]項目において、直近のみ24時間単位での閲覧もできるようになったと発表しました。正直そこまで…なのですが、毎日確認して、自分でアーカイブ化するようにしていけば、時間単位でのクリックを統計で分析していくこともできるようになりますので、そういう意味では深掘りできるようになったと言えますね。

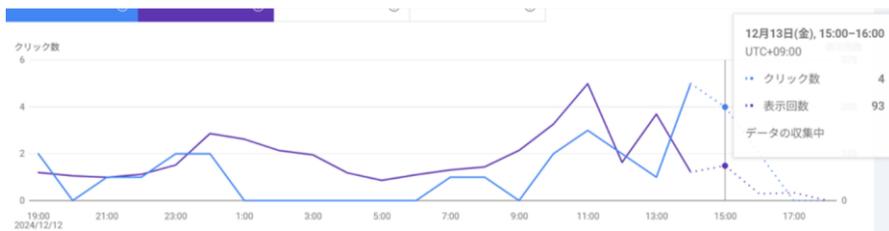


### データの鮮度の向上

今年、Search Consoleはパフォーマンスデータの鮮度の向上に取り組んできましたが、今回のリリースはその大きな成果となっています。全体的に平均のデータ取得のタイムラグは約半分まで短縮されました。この新しいビューと改善されたデータ鮮度によって、最近公開したコンテンツをより適切かつ明確に確認し、必要に応じてタイムリーな対応を行えるようになることを願っています。この新しいビューが皆様にとってどれくらい役立ったかについてのご意見や、さらに改善するためのご提案をお待ちしております。フィードバック、ご質問、コメントがございましたら、[LinkedIn](#)でお問い合わせいただくか、[Google Search Central コミュニティ](#)にご投稿ください。

引用) [Search Central Blog](#)より和訳

実際に私が閲覧できるSearch Consoleでは[24時間]の項目が追加されていました。[24時間]ビューでは、直近の27時間前～3時間前までのデータが表示されており、直近の8時間前までのデータが正確に閲覧できます。直近の7時間前から3時間前までは一応データが表示されていますが、[データの収集中]という表示がされており、先細りした数字になっており、まだ集計が済んでいないことが分かります。



12月13日の22時現在での情報例

## GSCで過去24時間別データ閲覧

Googleは米国現地時間12月12日、Search Central BlogにてSearch Consoleにおける[検索パフォーマンス]項目において、直近のみ24時間単位での閲覧もできるようになったと発表しました。正直そこまで…なのですが、毎日確認して、自分でアーカイブ化するようにしていけば、時間単位でのクリックを統計で分析していくこともできるようになりますので、そういう意味では深掘りできるようになったと言えますね。

### 直近のデータが欲しい人にも時間帯別のデータが欲しい人にも

今回の仕様によって直近のデータが手に入るため、公開直後のインデックスの様子や時間帯別の推移が分かるようになります。しかし、時間帯別に見たい場合は常にSearch Consoleに張り付いて監視していなければならないので、時間帯別推移を確認できる期間をもう少し延ばしたり、時間帯別のパフォーマンスレポートが閲覧できるようになったりすれば良いな、と思います。

まあ、とりあえず直近のデータをいち早く見たい人や直近の時間帯別データが欲しい人にはちょっと嬉しい機能ですね。

## 【December 2024 core update】Google、2か月連続のコア アップデート。将来はコア アップデートはリアルタイムになる？

December 2024 core update(2024年12月のコア アップデート)の展開を太平洋時間の2024年12月12日に Google は開始した。

December 2024 core update(2024年12月のコア アップデート)の展開を太平洋時間の2024年12月12日に Google は開始しました。

LinkedIn と Xほか、[Bluesky](#) でもアナウンスしています。



2024年12月のコアアップデートが展開されており、2週間で完了する見込みです。

先月コアアップデートがあったのに、なぜ今月もコアアップデートがあるのか疑問に思われるかもしれませんが、Google では常に改善を行っているコアシステムが複数存在します。詳しくは、過去のブログ記事 (<https://lnkd.in/gQs2n9ib>) をご覧ください。

コアアップデートの詳細はこちらをご覧ください：<https://lnkd.in/gjkpgQxy>

### 2 か月連続のコア アップデート

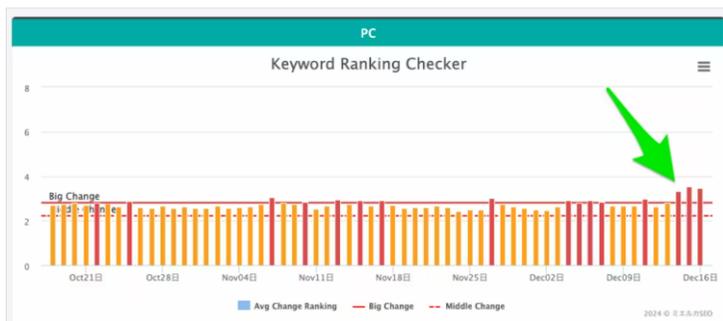
先月、[11月にもコア アップデート](#)を Google は実施しています。しかも2024年11月のコア アップデートは12月5日(同時間)に展開完了したばかりです。そのわずか1週間後に次のコア アップデートです。

連続したからといって特別な理由があったわけではないとして、過去の関連ブログ記事にリンクしています。特集でもなんでもなく、通常の運用に沿ったアップデートだと強調しています。

ランキング変動の観点では、現状では少なくとも11月よりは大きい動きが発生しているようです。

## 【December 2024 core update】Google、2か月連続のコア アップデート。将来はコア アップデートはリアルタイムになる？

December 2024 core update(2024年12月のコア アップデート)の展開を太平洋時間の2024年12月12日に Google は開始した。



展開完了までには2週間程度かかるので、変動については今月いっぱいには観察する必要があるでしょう。2024年12月のコア アップデートの展開状況は[検索ステータスダッシュボード](#)で確認できます。

### より頻繁で高速、小規模なコア アップデートに変遷か？

スイスのチューリッヒで先週開催された [Search Central Live Zurich 2024](#) に参加してきました。意図的ではなかったようですが、まさにこのイベント開催中に2024年12月のコア アップデートは実施されました。

セッションのなかでもコア アップデートはトピックとして出てきたので、最新情報を共有します。

最初のセッションで登壇した検索リレーションズチーム社員の1人はコア アップデートの将来の展望として次のように言及しました。



将来的にはさらに多くのコアアップデートが実行され、さらに高速化されるだろう。これらのアップデートをより頻繁に行うようにランキングチームは取り組んでおり、SEO 担当者が行った作業が検索結果に反映されるまでの時間を短縮したいと私たちは考えている。

## 【December 2024 core update】Google、2か月連続のコア アップデート。将来はコア アップデートはリアルタイムになる？

December 2024 core update(2024年12月のコア アップデート)の展開を太平洋時間の2024年12月12日に Google は開始した。

また、Q & A セッションに米国からオンラインで参加した Danny Sullivan(ダニー・サリバン)氏は次のようにコメントしました。

現在のように頻度が低く大規模なアップデートではなく、毎日コアアップデートを行うようにしたいと私たちは考えている(文字どおり毎日ではなく、より頻繁に小規模なアップデートを行うというニュアンス)。

すでに毎日多くの小規模なアップデートが行われており、これは、Google が継続的な改善を好むという考えに対応するものだ。



Google 検索では、毎日のようになんらかの変更が加えられています。

2021年は800,000の検索品質テストを実行し、4,300以上の改良を導入したとのことでした。

## 【December 2024 core update】Google、2か月連続のコア アップデート。将来はコア アップデートはリアルタイムになる？

December 2024 core update(2024年12月のコア アップデート)の展開を太平洋時間の2024年12月12日にGoogleは開始した。



しかしこれら変更のうち公表されるのはごくごくわずかです。

コア アップデートを毎回必ずアナウンスするのは、検索に与える影響が大きいため、何が起きているのかを情報提供することで透明性を高めることが狙いです。

現在のコア アップデートには次のような特徴があります。

- 年に3～4回
- 展開完了に2週間から1か月
- 比較的大きめのランキング変動

小さなアップデートが頻繁に継続的に実行されているなかで、コア アップデートのこうした特徴はGoogleの検索システムの更新としては特異です。

大多数のアップデートのようにコア アップデートも、もっと頻繁で、規模が小さく、すばやく展開完了するようにしたいというのがランキングチームの目指すところのようです。

いずれはコア アップデートもリアルタイムに近い形になり、アナウンスそのものがなくなるのではないのでしょうか。ともすれば、2025年中にそうなる可能性もなくはないようにも思います。